

2017.03

● 連載

みんなで一冊のえほんを作ろう②

● 特集

あるほなつき、小学校での取り組み

● エッセイ・コラム

有歩のページ・なつきのページ

● 活動報告

なつきのえほん・有歩のグループ展

● インフォメーション

おいたち・レシビ・四コマ漫画

あるほなつき

小学校での取り組み

私の子供たちが通う小学校で、私は今まで校外講師として図工の時間に版画や図画を教えてきた。去年の暮れ、あるほなつきが東根のまなびあテラスや村山の飴葉プラザなどのイベントでやってきた「絵の具の実験」を、表現と鑑賞の授業」と題して小学校の図工の時間に6年生で行う機会を得た。

子どもたちは、絵の具の入った容器や白い液体や得体のしれない半透明の液体に興味津々。まずは、今日行うことを簡単に説明した。

- ① 大きな丸いお皿に白い液体を入れ、その中に絵の具や半透明の液体をたらしていく。
- ② それを写真に撮る。
- ③ 撮った写真パソコンに取り込み、それぞれが気に入った部分をトリミングしてプリントする。
- ④ その作品にタイトルをつける。
- ⑤ みんなで発表し、鑑賞しあう。

らどうなるかな。ぴゅー——と流し込むと、絵の具はぐちゃぐちゃに色が混ざり、全体がほぼ同じ色におさまった。これで、実験は終了。

次は、さきほど撮った写真をパソコンに取り込み、自分のお気に入りの部分を切り取る作業。子どもたちはパソコンの操作はかなり慣れたもので、説明を聞くたびに、拡大してみたり反転したり回転したりして、自分の好きな部分を見つけようとしていた。トリミングが完了した児童からプリントしていく。プリンターから出てきた色鮮やかな作品に「すごい！」という声があがる。

全員がプリントし終わったら、鑑賞の授業。自分はずいぶん部分を切り取ったのか、どんな特徴があるのか、どこに魅力を感じたか、などを書き出してもらい、最後にタイトルを考えてもらった。頭を悩ませる子どもたち。見たまんまでもおもしろくないし、想像力を働かせ、頭の中のいろんな引き出しを引っ張り出してとても素敵でおもしろいタイトルがついた。

そして、友だちがどんなところを切り取ってどんなタイトルをつけたのか、発

「この白い液体、なんだと思う？」お皿に入れたものがなんなのか、子どもたちからは「牛乳？」という声が。「あたり！」「牛乳の中に絵の具を入れるとうなるかな？」やってみよう。子どもから順番に絵の具をたらしてみた。「わああ！」絵の具がいろんな形に広がっていき、静かに歓声が上がる。色と色とがまじりあひ、姿を変える。勢いよく入れてみたり、静かに滴を落としてみたり。一通り試してみたら、半透明の黄色っぽい液体の出番。「これなに？」「油じゃない？」さすがは6年生。事前に予想してみるのは大事なこと。ぽちゃんと液を垂らしてみると、ぽああつと輪を描いて絵の具をはじいた。「やっぱり油だね」

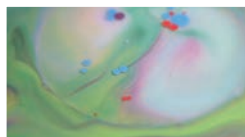
油をたっぷり入れた後は、またその上から絵の具を投入。油の中に絵の具の球がたくさんできたり、その小さな球がくっついて大きな球になったり。生き物のように姿を変える。「きれい——」「この色いいね」みんなからそんな声が出てきたとき、写真を撮る。それから最後の液体を。「オリーブオイル？」「糊を溶いたやつ？」黄緑色の透明の液体の正体は、「実は食器用洗剤でした」。これを入れた

表示あった。「ああ、○○くんらしい！」「わかるわかる」「へえ！こんな部分あったっけ？」いろんな声があがった。今回の授業を通して、子どもたちに伝えたかったこと。それは、
(思い通りにならない色や形の) 偶然を楽しむこと。
(どの部分を切り取るか) 意識すること。
(みんなの感覚の違いを) 認めること。

普段、絵を描いたり工作したりするとき、完成形が少なからず頭の中にあって、下書きをしたり骨組みをつくったりする。しかし、今回の場合はそれが全くない。どこがゴールかわからない中で、その時できた色や形から次どうしようか考える。そういった作品の作り方もある、という経験ができたのではないだろうか。

また、たとえば風景画を描きましようと言われた時、ただ目の前に見えた景色をかくのではなく、目の前に広がるその景色のいっただいどを切り取るのか、そこに魅力を感じて何を伝えたいのか、そういうことを意識したら、きっと素敵な絵になるだろうし、その人らしい感性がにじみ出るものになるだろう。

(さとうなつき)



あめのなか、ただ、ながめていた
いつのころからだろうか
日がたつにつれ、
おもいでの色はかわっていく

なぜ、撮りたくなるのか
考える間もなく、撮っている

冬にかくされた色、または、
わすれられた色を見つけたんだ

日がおちてからの、たのしみもある
寒さはあとから、やってくるのだ

ゆきのなか、ただ、ながめていたんだ
そして、ただ、ながめていても、
きづかない景色、見つけたんだ

もう、自由に描けるのです

僕にとって、どっちでもいいこと、
なんだっていいこと

あなたにとって、どっちでもいいこと、
なんだっていいこと

こうなるかもしれないし、
ならないかもしれない

どっちでもいいじゃん、
なんだっていいじゃん

だれかにとっては、どうなんだろう

あしたになったら、どうなんだろう

あさってになったら、どうなんだろう

きょねんのいまごろは、

どうなっていたんだろう

このけしきは、きのうみたのか、

きょねんみたのか

あらゆるいしきを遠ざけたいのだ

景色をながめている
きつと、

時間と光の蓄積により、無意識の中で、

絵を描きはじめているようだ

そこで、ちょっと未来を思い描いてみる

そして、シャッターをきる

そこに、うつっているのは、

どんなけしきだろうか

空気を撮ろうする試みは、見えない物
を意識する取り組みとして始めた。

人間の目とは異なり、カメラが中空で
もピントを合わせたままでいられるとい
う違いは、空気を撮れると確信した瞬間
であった。

山川草木悉皆成仏の言わんとしている
こと、それは、そこに、なにかが、在る
と思えること。そして、在ると仮定して、
そこから、学ぶことができること。この
ことが、今の時代に必要とする知恵だと
思うのだ。

空気は、老若男女、罪人に至るまでわ
けへだてなく行き渡っている。そして、
空気がなければ人間は死んでしまうのだ。
空気を撮ろうする試みは、ばかげたこ
とではなく、そこに、在るものを感じ、
そこから何かをまなぶことなのだ。

人間にとって、最も大事なものの一つ
である空気が、最も普段意識しないもの
であるという事実。空気から何かを学べ
ることが出来るならば、それは、あらゆ
ることから人間にとって大事なことを学
べるということだ。

なつきのエッセイ

『こどもおとな』

子どもは雪がもさもさ降ってる中、寒さもろともせず楽しそうに雪遊びをする。顔に雪があたってほっぺは真っ赤だし、スノーウェアも手袋も帽子もどんどん濡れて、しまいにはぐちゃぐちゃになる。でも、楽しそう。私は寒いのがとても苦手だから、そんな子どもたちの姿を「よくやるなあ」という思いでながめる。似たような感覚は、いろんな場面でも感じることもある。

公園に遊びに行った時の滑り台。子どもたちはあきもせず、階段をのぼっては滑り、のぼっては滑り。何度だつてくりかえす。「なにがそんなに楽しいんだろ」と不思議になる。1、2回滑れば、もういいじゃない。

寝る前の読み聞かせ。毎晩毎晩同じ絵本を「読んでー！」と持ってくる。文章を暗記するほど読んでいるのに。新しい絵本のほうがいいんじゃない？

でも、考えてみると、私も子どもの頃は、信じられないけど冬は一日中でも雪の中外で雪遊びをしていた。滑り台は公園の遊具の中で一番好きだった。絵本も、ぼろぼろになるほど繰り返し読んだ絵本があった。



いつしか、そんな感覚は忘れてしまっていて、忘れるだけじゃなく、今はそれを感じられなくなっていることに気づく。いつから、そうなったのか。子どもの感覚のまんま、おとなになったら、楽しかったのにな、と思ったりもする。

それに、子どもたちは楽しみ上手だけでなく、その描く絵といったらほんと素敵なんだから！表現教室や図工の時間で子どもたちの絵を見ると、のびのびとした感性に嫉妬することがよくある。こんな絵は、子どもにしか描けない。今の自分が描いたら、それは子どもの真似事だ。

子どもに戻ることはできないし、真似をしてもしかたがないから、せめて、好奇心と素直さと真面目さを持っていたいな、と思う。楽しいと感じることは子どものころとは違って、やってみたいと思ったこと、できるようになりたい気持ち、繰り返しコツコツ積み重ねること、そういったことを大切にしたい。



正源寺伝承 昔話

『でんでんころもおんどらば』



ことの始まりは、読み聞かせをきっかけに知り合った友達のお宅に遊びに行ったことでした。

そこは、正源寺という真室川にあるお寺で、お茶を飲みながら共通の趣味である絵本について話していたら、正源寺に古くから伝わる昔話『でんでんころもおんどらば』というのがある、という話題になりました。彼女が幼い頃、寝る前によく母に聞かせてもらった思い出深いお話なのだそうです。「これが絵本になったらいいなあ」という彼女の一言が、今回の絵本づくりのスタートでした。

みるみる話が盛り上がり、その日のうちに実際にお母様にその昔語りを聞くに

至りました。真室川の方言で語られる物語はあたたかく、また、物語の中には愉快なリズムの呪文のようなものが何度もでてきて、聞いていて耳に心地よかったです。「読み聞かせにぴたりだ！」一度聞いただけなのに、つい口ずさみたくなるフレーズ。これは、絵本にして読み聞かせたい。そう思いました。



昔話を絵本にするには、念入りの取材が必要です。過去に真室川の昔話『きゅうりひめご』を描いたときに実感しました。その当時の様子（といっても、はっきりとした時代もわかりません）例えば、人々の着ているものや景色を、本で調べたり話を聞いたりしながら、イメージを作り上げていきます。主人公は徳の高い旅のお坊さんのお話ということで、正源寺の先代ご住職に顔を似せて描くことに

WORKS

えほんのこころ

最近描いているのは、4年前の冬の日、雪かきをしながらアイディアが思い浮かんだ絵本の続き。続きといっても、ストーリーは全く変わってしまっている。主人公のネコだけ残った。この冬に、また雪かきしながら創作意欲が沸き、描き始めることになった。

私の場合、ストーリーが先に出来上がっていて、それに絵をつけて行くやり方と、「こんな絵を描いてみたい！」というその鮮明なイメージから入っていく場合とがあるのだが、今回は後者だった。描いてみたい場面が先にあって、それに少しずつ物語をつけ加えていく。だから今もまだ、ストーリーはできあがってきではないものの、定まっていはいない。「こんな場面もあったら楽しいかも」とひとたび思うと、話の展開はまた違った方向に。描きたい絵を描きながら、物語が出来上がっていくのも、また楽しい。自分でもまだどんな終わりが待っているのか、

わかっていないのだから。完成を早くしたい！

(さとうなつき)

さとうなつき絵本のための習作

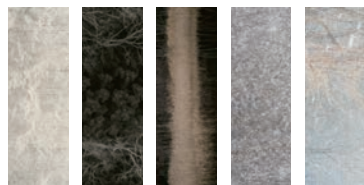


PAST EXHIBITION (Alfo Maeta)

SAMURAI FOTO Group Exhibition
Emerging Visions of Japan
Feb 20 (Mon) - 26 (Sun) , 2017
Subway Gallery M, Minatomirai Station

in the air

In Buddhism, they have a word 'Sansensoumoku sikkai joubutsu' (山川草木悉皆成仏) . It means all things are equal and they have the Buddha nature. Even it is invisible, something exists there. We should know what it means more carefully. I think it is important for us to be more aware of the danger of the power plants than the effectiveness of them.
Air is one of the most important things for us. It is equal for all of us, from young and old. We know that we will die without the air but normally, we are unconscious about it. I wonder we treat the power plants like that, too. I have forgotten something important for my life. The disaster reminds me of that. I think my feelings are reflected well in my photographs.



しました。ご家族にとっても、思い入れの深い絵本となったら、これ以上嬉しいことはありません。
また、何度もお寺に足を運び、太鼓や鐘などの鳴らしもの、庭の池や廊下の感じなど、写真をたくさん撮りました。お坊さんの衣装やお祓いするときのポーズは、実際にしてもらった写真を送っていただいたりもしたのです。
そうして、ようやく原画が完成しました。絵本になるのはまだ先ですが、手づくりの紙芝居を持って読み聞かせをする日は近いことでしょう。春が来る日を待ちわびるように、その日が来るのを楽しみにしています。

イ・ン・フ・オ・ナ・ツ・キ

www.facebook.com/alfonatsuki/

twitter.com/alfo_natsuki



おいたちエピソード①
誕生〜3歳のころ
さとうなつき
絵本作家

山形県最上郡在住
1976年3月3日



天然パーマくるくるの髪の毛。1才になる前、2階でお昼寝している私を、母がちよっと買いい物にかけている間に、私は階段から落っこちました。でも、元氣！頭にも残るハゲは、その時の思い出です。
前田有歩(まえたあるほ) 写真作家

山形県山形市在住
1974年6月3日



天然パーマくるくるの髪の毛。雨に当たるとくるくる度アップ。小さい頃ブランコにのつていたときのお話。落ちました。頭を通り過ぎたまではよかった。が、戻ってきませんでした。今も眉毛の一部毛が生えませんが、昔は、打ち身をする、梅干し貼られましたよね？
巻頭の写真
気持ちの良い午後の日差しをあびて、お散歩でも

いかがでしょうか？
季節の移り変わりを感じている今日この頃です。
今月のレシピ

煮豚

材料 (10人分)

豚肉 (バラ又はロース塊) 3.5kg

醤油 1/2カップ

酒 1/2カップ

水 (肉がかぶる程度)

生姜 1片 (皮でよい)

にんにく 1つ (つぶしておく)

ネギ (3等分に手で折る)

作り方

① 熟したフライパンで豚肉

かたまりを焦げ目がつくまで全面焼く。

② 圧力鍋 (なければ普通の鍋) に醤油、酒、生姜、にんにく、ネギを入れ、煮る。

③ 圧がかかったら弱火にして15分ほど煮る。

* 茹で玉子をのたれで煮ると、煮玉子になります。



編集後記

僕たちの活動は、それぞれ「個」の活動が、根幹となっている。誌面をつくりながら、自分の伝えたいことが伝わるように考えつつ、同時に相手の伝えたいことが伝わるよう試行錯誤する。価値観が違えば、さまざまな多様性があることはあたりまえで、むしろ、その矛盾を楽しんでさえいる第2号となりました。一冊のなかの多様性と、ときに矛盾があることを、ぜひ楽しんでいただきたい。さて、次号ではいよいよ、「人を撮る」ということを描くということを一冊丸ごとテーマにしたいと考えています。二人展などを通して行ってきた活動を「まとめる」という作業の大切さを感じている。(有歩)

それがうれしい。

伝えたいこと、書きたいことが山ほどあって、ようやく内容を選び出し、第2号も完成することができた。これから書くこと、冊子を作ること、続けていきたい。

一冊は薄っぺらいけれど、1年、2年経ったらどれくらいの厚みになるのかな。それが今から楽しみである。(なつき)

発行日

2017年3月1日発行

編集人

前田有歩・さとうなつき

発行人

あるほなつき

発行所

あるほなつき

〒990-2332

山形県山形市

飯田2-12-27

電話(前田有歩)

08011337769

次号予告(4月上旬予定)

●特集

人を撮るということ

人を撮くということ

●連載

みんなで一冊の

えほんをつくるう③



今までも毎日SNSにひと言ふた言日々の出来事や思ったことを書き留めて来たけれど、冊子を作り始めて、文章を書くことが日常の一部になった。